

平成 21 年 6 月 13 日現在

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18730356  
 研究課題名 (和文) 特別養護老人ホームにおけるユニットケアを規定する要因に関する  
 社会学的研究  
 研究課題名 (英文) Determining Factors of 'Unit Care' in Special Nursing Home for  
 the Elderly: A Sociological Research  
 研究代表者  
 菅原 真枝 (Sugawara Sanae)  
 東北学院大学・教養学部・准教授  
 研究者番号：50359501

## 研究成果の概要：

本研究は、わが国の特別養護老人ホームにおいてすでに制度化され施設介護の手法として定着しつつあるユニットケアを規定する諸要因を抽出し、社会学的な分析をおこなったものである。具体的には、宮城県内の全ての特別養護老人ホームを対象として実施した質問紙調査により得られたデータをもとに、それぞれの施設の職員配置やユニットリーダーの位置と役割について解析した。また、ユニットケアの運営形態ごとに選定した複数の施設の事例をとりあげ、集中的な分析をおこなった。この事例分析においては、参与観察にもとづいて作成した行動記録や会話記録のほか、運営主体や介護職員、入居者、家族に対する聴取調査の結果を資料として蓄積し、分析の対象とした。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,800,000	0	1,800,000
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	210,000	3,710,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：特別養護老人ホーム、ユニットケア、職員配置

## 1. 研究開始当初の背景

従来、特別養護老人ホームでは、全ての入居者にたいして集団一括的に食事介助・排泄介助・入浴介助がおこなわれていた。介護を担当する職員は、決められた時間のなかで流れ作業的なケアを提供するのが一般的であ

った。このようなケアのあり方に対する反省から生まれたのがユニットケアである。ユニットケアは、施設内の居室を10人程度からなるいくつかのグループに分け、それぞれをひとつの生活単位として少人数の家庭的な雰囲気の中でケアをおこなうという、施設介

護の新しい形態である。1つのユニットに従事する介護職員が固定されているため、入居者ひとりひとりの違いに配慮したきめ細やかなケアが提供できるとされている。認知症高齢者が入居者の全体の8割を占める特別養護老人ホームにおいては、このような「病院モデル」から「生活モデル」への転換は大きな可能性をもつと期待されていた。そうした期待を背景として、ユニットケアの実践例が次々と紹介され、導入から定着までのプロセスや、ユニット化に伴う入居者の生活変化などについての研究報告がなされるようになった。だがそれらの研究には、ユニットケアの有効性や妥当性をあらかじめ肯定的に扱うものが多く、しかもそれぞれの事例に対して個別的にアプローチすることどまっていた。その結果、個々の事例の現状や課題は明らかになったとしても、ユニットケアそのものの成り立ちについて分析したり問い直したりするような研究はみられなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、それぞれの施設がおかれた条件によって多種多様にありうるユニットケアが、いかなる要因の連関によって成り立っているのかを解明することにあつた。具体的には、宮城県内にある特別養護老人ホームを対象として計量的アプローチならびに質的な事例分析をおこなうことにより、ユニットケアを規定する諸要因を社会的に分析することであった。

ユニットケアは、施設介護の理念型あるいは完成型として一元的に捉えるのではなく、各施設がその標準化にむけて段階的に取り組んでいくものとして扱わなければならない。なぜならば、どの施設においても限られた財源や条件のなかで、現にある建物や職員たちを最大限に生かしながらユニットケアに取り組んでいるのが実状だからである。さまざまな形で実践されているユニットケアが、いかなる要因の連関によって成り立っているのを明らかにできなければ、ユニットケアの社会的評価を定めることはできない。

そこで、ユニットケアを規定する要因を抽出し社会的な分析をおこなうことをねらいとして計画・実行されたのが本研究である。このことにより、ユニットケアを類型化するための手がかりを得ることが、本研究の最大の目的であった。

## 3. 研究の方法

- (1)宮城県内にある全ての特別養護老人ホームを対象に実施した、施設のユニット化の状況に関する質問紙調査によって得られた計量的データを分析した。
- (2)ユニットケアの運営形態ごとに複数の特別養護老人ホームを選定して参与観察をおこない、入居者および介護職員の行動記録および会話記録を作成した。
- (3)あわせて、運営主体や介護職員、入居者、家族を中心に聴き取り調査を実施し、質的なデータを収集した。
- (4)ユニットケアおよび介護労働に関連する文献や資料を収集し考察をおこなった。

## 4. 研究成果

### (1) 1年目

①宮城県内の全ての特別養護老人ホーム(90カ所)を対象に実施した質問紙調査(平成16年4月実施)の自由回答について、テキストマイニング法による構造化分析をおこなった。また、同調査で得られたデータにもとづいてユニットケアリーダーの位置と役割について解析した。

②新築型の特別養護老人ホームのなかから複数の施設を選定し、参与観察をおこなった。また、ユニットケアと職員配置の状況について聴き取り調査を実施した。特に介護職員を対象として、介護職に従事するようになった経緯や動機、入居者に対する個別ケアにあたるさいの具体的な工夫、ターミナルケアに対する考え、現在の仕事に対する評価や満足度などに関してインタビューをおこなった。また、入居者の基本属性、既往歴、家族構成、人的ネットワーク、入居までの経緯などに関してデータを収集した。

③自治体および運営主体がユニット型の特別養護老人ホームを新規開設するにあたり、地域福祉サービス全体のなかでどのような位置を付与し、いかなる役割を期待しているか、地域的特性をいかに考慮しているかについて、関係各者への聴き取り調査を実施した。

④特別養護老人ホームには、単なる収容型の施設サービスにとどまらず、高齢者の在宅での暮らしを支える地域福祉サービスの拠点としての役割が期待されている。施設のユニット化の傾向は、従来言われてきたような施設介護の倫理的転換という意味を内包するだけでなく、高齢者の地域生活の充実との関係性において把握される必要があることが

あらためて浮き彫りになった。

## (2) 2年目

①ユニットケアの運営形態ごとに複数の特別養護老人ホームを選定し、訪問調査を実施した。職員配置、運営期間、職員のケア労働量、入居者の生活の質と生活満足度、施設周辺の地域性といった客観的データを収集した。

②加えて、主としてユニットリーダーを対象とする聴き取り調査を実施し、介護職に就労した経緯と動機、これまでに従事したケアの種類、ユニットケアを実践するにいたった経緯と動機、リーダーを担当するにあたり指導的な役割を果たした人物の存在の有無、入居者との人間関係を形成・維持するにあたっての具体的な工夫などについてインタビューをおこなった。

③入居者の現在の生活のありかたは、それ以前の生活史と不可分の関係にあるため、入居者に対するライフヒストリーの聴き取りもあわせて実施した。

④特養の安定的で持続的な経営のためには、若者や主婦によるパート労働を欠くことはできないが、そこから派生する雇用格差の問題を看過することはできないことから、非正規雇用やワーク・ライフ・バランスの問題も視野にいれ、文献を収集し考察をおこなった。

## (3) 3年目

①新築型の特別養護老人ホームを重点的な調査対象とし、職員配置を規定する諸要因に関する質的データの収集をおこなった。また参与観察を実施し、入居者と介護職員、入居者同士、入居者とユニットを訪れる家族などの社会関係の構築プロセスに注目し、コミュニケーション論の観点からこれを分析する作業に着手した。

②近年の特養においては、介護職員の離職率の高さが看過できない問題となっており、とりわけユニットリーダーと呼ばれる介護職員のユニットへの定着が、特別養護老人ホームにおけるケアの質の確保の鍵を握っていることが明らかになった。

③正社員と非正社員の賃金格差や労働時間、雇用管理の実態に関して、関係諸機関においてその統計的データを収集した。従来の主婦によるパート労働に加えて、学生アルバイトを雇用している施設も存在することが明らかになった。短時間労働とはいえ、なかには正社員とまったく同様の仕事内容を求められるケースもあった。介護の人材不足の問題は年々深刻化しており、職員配置の質的構成

の問題がユニットケアのありかたを規定する要因の中心に位置していることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

菅原真枝 (SUGAWARA SANAE)  
東北学院大学・教養学部・准教授  
研究者番号：50359501

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

なし